# 令和7年度一般会計決算賛否討論

## 賛成討論

**府中市議会市民フォーラム**

令和7年度は、市制施行70周年を迎えた6年度に続き、市制施行100周年に向けた新たなステージが始まった年である。

そのような中、7年度の決算は、市税収入が590億536９万7000円と史上最高水準であったほか、実質収支も40億1025万円の黒字で堅実かつ安定したものとなった。

また、7年度は、犯罪被害者等支援の進展や公契約条例の施行など、人々の権利を守る施策が確実に前進した1年でもある。

今後も「きずなを紡ぎ　未来を拓く　心ゆたかに暮らせるまち　府中」を市民とともに築いていくことを求め、本決算に賛成する。

**府中市議会市政会**

第7次府中市総合計画前期基本計画の最終年度であった令和7年度は、日吉保育所等の基幹保育所整備、災害用モビリティトイレ車両の購入、長沢蘆雪展をはじめとした様々な展覧会の開催、樹木医による老朽化した街路樹の点検・診断、デジタル地域通貨ふちゅPayの導入などに取り組んだ。

また、分倍河原駅周辺整備基金を新設し、61億6000万円を積み立てるなど、今後の行政需要を見据えた適切な財政運営への取組が着実に進められた。

引き続き、市民が住み続けたいと思える都市を目指し、市政運営に取り組んでいくことを期待し、本決算に賛成する。

## 反対討論

**無所属**

物価高騰が長期化し、賃金や年金が物価上昇に追いつかず、子育て世帯や高齢者、ひとり親家庭など、多くの市民が負担を感じている。

そのような中、決算では不用額が多く、予算が必要な人に届いたのか検証が必要である。また、困難を抱える子どもの居場所づくりや環境問題・気候危機対策を更に進める必要がある。

市民の暮らしを守り、困難を抱える人を支え、地域の環境を子どもたちの将来に引き継ぐことこそ市に課せられた優先課題である。評価できる取組もあるが、施策の優先順位と実効性に課題が残るため、本決算に反対する。

**日本共産党府中市議団**

令和7年度は、物価高騰が長期化し、市民生活は厳しい状況が続いた年であった。

そのような中、市は、基金積立てを優先しているが、市民生活への積極的な活用を求める。また、新総合体育館については、事業費や竣工までのスポーツ活動をどう維持するかなどの基本的な情報が十分に示されないまま、計画が進められている。

市の財政力に対し、市民の生活を守る政策が十分とは言い難い内容になっており、公共施設整備について市民を置き去りにした計画が随所に見られているという点が問題である。市民の暮らしと願いに応える市政運営を求め、本決算に反対する。

# 決算特別委員会

（2・3面）　令和7年度一般会計歳入歳出決算の審査状況から、主なものをお知らせします。

## 歳　入

### 予算編成時と比較して市税収入が増加した要因は

**委員**　予算編成時と比較して、市税収入が増加した要因は。

**市民税課長補佐**　個人市民税については、雇用・所得環境の改善などを背景とした納税義務者数の増加や給与所得、事業所得等の増により、約2億7000万円の増額となった。法人市民税については、企業収益が堅調に推移した納税義務者数の増により、約32億6400万円の増額となった。固定資産税・都市計画税については、新築家屋が見込みを上回ったほか、一部企業の積極的投資などにより、合計約2億7００万円の増額となった。

### 未利用地や暫定利用中の土地活用実績は

**委員**　令和7年度における未利用地や暫定利用中の土地の活用実績は。

**財産活用課長補佐**　市有財産の有効活用及び維持管理経費の縮減を図る観点から、一時貸付け等を実施し、歳入の確保に努めており、実績は、民間駐車場用途で4件、879万2000円、自動販売機設置用途で2件、16万3793円である。また、公共施設の再編等に伴い生じた跡地については、将来的な行政需要や地域のまちづくりの方向性を踏まえながら、有効活用に向けた検討を進めている。

今後は、行政需要への活用の可能性を検討した上で、将来的な活用見込みがない土地は、貸付けや売却なども含め、その土地の特性に応じた活用方法を検討していく。

## 歳　出

### 奨学金等返済サポート事業利用状況と周知方法は

**委員**　令和7年度における奨学金等返済サポート事業の利用状況と周知方法は。

**教育総務課長補佐**　申請者数は89名で、このうち交付者数は78名となっており、11名が不交付となった。不交付となった理由は、居住要件や課税要件、書類の不備などで要件を満たしていないことによるものである。

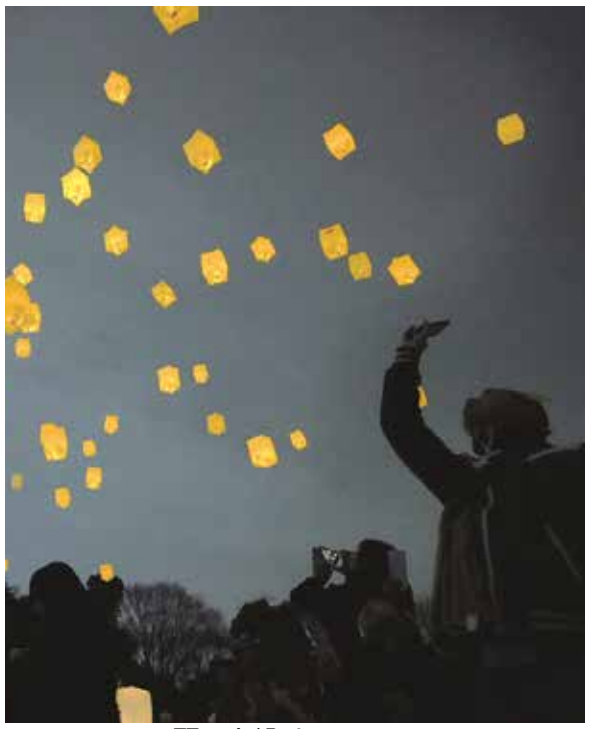
同事業の周知については、広報やホームページへの掲載のほか、LINEの配信、「おもや」のデジタルサイネージへの掲示、社会福祉協議会や商工会議所の協力によるPRを実施した。また、本市の貸付奨学金利用者への周知も行った。8年度についても、同様の対応を実施している。

### ミライにつなげる提案事業　実施目的と評価は

**委員**　ミライにつなげる提案事業の星空ランタンナイトについて、実施目的と評価を聞きたい。

**政策課主幹**　本事業は、市制施行100周年に向けた新たなスタートとなる令和7年度に、本市の未来へ向けた市民一人ひとりの意識醸成と行動変容のきっかけになることを目的に実施したものである。

評価としては、募集段階から多くの反響があったことや参加者から「未来への願いが込められた数多くのランタンが夜空に浮かぶ光景が想像以上に美しく感動した」といった好意的な声が多かったことを踏まえると、意識醸成や行動変容のきっかけになるものとして実施することができたと考えている。



▲ランタンに願いを込めて

### 長寿ふれあい食堂推進事業　実施状況と効果は

**委員**　長寿ふれあい食堂推進事業について、令和7年度の実施状況と本事業の効果について聞きたい。

**高齢者支援課長補佐**　7年度の長寿ふれあい食堂は、実施団体数が4団体、開催回数が62回、延べ参加者数が906人となっており、6年度と比較すると、実施団体数は2団体、開催回数は23回、延べ参加者数は87人、それぞれ増加している。

参加者から「楽しい」「友人が増えた」などの声をいただいているほか、近隣の一人暮らしの高齢者を誘って参加する事例もあることから、高齢者の閉じ籠もり予防や孤立感軽減につながっていると認識している。

### 樹木医による街路樹点検　その概要は

**委員**　樹木医による街路樹点検の概要は。

**管理保全室長補佐**　本事業は、街路樹の倒木等の事故を未然に防ぐために、大径化・老齢化した街路樹に対して、樹木医による点検及び結果に応じた診断等を行い、剪定や伐採などの適切な樹木管理に活用するものである。令和7年度は、倒木等のリスクが高い樹木として、サクラ、ケヤキ、イチョウの3樹種、1750本を点検し、342本はより詳細な外観診断が必要と判定され、7年度はそのうち118本の診断を実施した。診断の結果19本については、不健全な状態で倒木の危険があったため、事前周知し、順次伐採の対応をしている。